平成二十一年

一、目録

福井県教育委員会は平成二十一年度から、福井県内に残る古文書の調査を始めた。保存場所や題名などをリスト化し貴重な史料の散逸を防ぎ後世に残していくのが狙いで、第一期は三年かけ白山信仰に関係する古文書を調査し刊行物にまとめる。

二、自治体史・地域史

『わかさ美浜町誌第六巻』「掘る・使う」（美浜町誌編纂委員会編）が発行。考古編と民具編の２部構成からなる。この巻で文化編が完結。『マンガ国吉城の歴史』（美浜町教育委員会）は国吉城を紹介する「佐柿国吉城ブックレット」の第３弾で町内の女性がマンガを執筆。

地域史として、白山信仰の巨刹だった坂井市豊原寺跡をまもり続けている保存会が『越前豊原』（豊原史跡保存会十周年記念誌）を発行。福井市清水西公民館は同館開館記念誌として、清水西地区の歴史や史跡、由緒をまとめた『志津の宝ものブック　志津の庄ふるさと探訪』を発行。越前市の歴史愛好会らでつくる「武生立葵会」は創立二十周年を記念し、『二十年の軌跡』と『武生立葵会報』の復刻版を発行。『若狭国太良荘史料集成第二巻』（若狭国太良荘史料集成編纂委員会編）は東寺領太良荘関係史料の調査を進めた資料集。『郷土に埋もれた宝』（福井市歴史ボランティアグループ「語り部」分科会編集委員会編）は、メンバーが一年間の江戸期における福井にまつわる三つの歴史の謎に迫った、研究の成果をまとめた。『私が生まれ育った向新保』（服部與兵衛著）は村長や理事長などを努めた著者が記していた地元の歴史や風習の遺稿を家族が発行。『乾徳地区の今昔　其の二』（森坂克彦編著）は二冊目で、地区の商店街の発足時の状況や地区を流れる河川の整備なども紹介。『下タ中集落史』（若狭町下タ中区史編集委員会編）は作業着手から二十三年をへて発行。『高校生が聞き取った若狭の戦中・戦後』（戦中・戦後体験聞き取り調査委員会編）は若狭地方の三高校の生徒と教諭が四年がかりで取り組んだ報告書。『三国湊奥景・三国祭頌景』（上出純宏文・水谷内健次写真）は湊町の三国の文化や風土、北陸三大祭りの一つ三国祭の魅力を写真とエッセーで紹介。『若狭路往還―ふるさとからの歴史発信』（中島辰男著）は郷土史講座で講演した内容をまとめて発行。

大野市は自然や歴史文化、産業、特産品など城下町大野の魅力を映像につめたＤＶＤを作成。福井市安居地区でも地元の歴史や名所をＤＶＤにまとめた写真記録集の製作が進められているなど冊子だけでなく映像を含めたものも作成されている。

このほか、福井県は幕末福井の業績を広く知ってもらえるようにさまざまな試みを行っており、その一つとして福井県文書館で福井藩主であった松平春嶽の政務状況などを記す文書「家譜」の活字化に取り

組んでいる。

三、各分野団体史

『敦賀市老人クラブ連合会五十年誌』(敦賀市老人クラブ連合会五十周年記念誌地区実行委員会編）は創立五十周年を記念した記録誌。『地域とともに歩んだ道』(小浜市連合婦人会編)は結成六十周年の記念誌。『鯖江市勤労青少年ホーム開設三十周年記念誌』(鯖江市勤労青少年ホーム編)。『わかくさ』(南中山小学校創立百周年記念事業実行委員会編)、『国高小学校創立百周年記念誌』(国高小学校創立百周年記念事業実行委員会編）は共に越前市の小学校の百周年記念誌。『丹南高等学校三十年史』(福井県立丹南高等学校編)。『創立五十周年記念誌　輝け！伝承と変革』（鯖江商工会議所編）は鯖江商工会の記念誌。『福井県英語研究会五十年史』(福井県英語研究会五十年史編集委員会編）は五十周年の記念として発行。

四、史跡調査報告書

福井県教育委員会は、『稲葉山城跡・黒駒遺跡』『志田神田遺跡』『菅谷烏帽子遺跡』『中角遺跡』『林・藤島遺跡泉田地区』『福井城跡』などを発行。鯖江市教育委員会は『方形周溝墓の埋葬原理　史跡王山古墳群環境整備工事完成記念考古学研究フォーラム記録集』を発行。

五、人物

『橋本左内と安政の大獄』(福井市立郷土歴史博物館編）は安政の大獄で刑死した橋本左内の没後百五十年を記念として開催された企画展の図録。『金森左京家展』（越前市武生公会堂記念館編）は、金森左京が南条・今立郡に所領を拝領して二百五十年を記念し開催された特別展の図録。『勝山城を築いた柴田一族の生涯と勝山城主列伝』（勝山公民館編）は戦国武将柴田勝政にスポットを当てた。『丁稚奉公物語』(柴田亮俊著）は敦賀市の郷土の先人たちの苦労話をまとめた小冊子で、高島屋を創業した飯田新七らを紹介。

六、民俗・文化財

福井市は市の文化財の概要をまとめた冊子を合併後の地区を含めて調査を行い、調査終了後刊行予定。若狭地方の民俗研究者らでつくる若狭路文化研究会が発足十年を迎え、記念フォーラムを十月に開催、今後も若狭地方の民俗文化の継承を計る。

美浜文化叢書の第四集『若狭・美浜の伝承と風土』（小林一男著）は、同町出身の故小林一男さんが残した貴重な資料をまとめ、美浜町誌に収録し切れなかった資料も掲載されている。『近世若狭湾の海村と地域社会』(岡田孝雄著）は近世若狭湾の漁村史の研究の基点となるもので、若狭湾沿岸部の漁村の歴史を研究していた故岡田孝雄さんの遺稿集。『若狭の翁と猿楽能』（山田雄造著）は民俗芸能の宝庫の若狭において演じられた、能・翁の変遷を記録した研究書。『北新庄むかしむかし』(北新庄むかしむかし編集委員会編）は地元に伝わる民話や昔話

を収録。若狭町歴史文化館は、館蔵の文化財などを網羅した『常設展示図録』と町内の古墳の位置を記した『若狭町古墳マップ』を発行。『越之国震災復興三十三ヶ所観音霊場』（福井市宮ノ下千寿会編）は福井震災の犠牲者や戦没者を弔おうと昭和二十五年に置かれた三十三観音様の所在をまとめた。

七、自然・工業・産業

『ふくい地質景観百選』（ふくい地質景観百選編集委員会編）は福井県内各地に分布する多彩な地質景観の生い立ち、歴史を理解できるよう多彩なカラー写真とともに紹介。

『越知山泰澄の道』（『泰澄の足跡』編集会議編）は白山信仰の開祖泰澄大師が修行したといわれる越知山の周辺を紹介。『文殊山の生き物』（文殊山の生きもの編集会議編）は文殊山で確認された植物や昆虫などのカラー写真とともに、文殊山の歴史も紹介。福井県は福井城址の西側にかかる御廊下橋を復元し『御廊下橋復元整備事業報告書』を発行。福井市は『旧蓑輪家住宅移築復原工事報告書』（福井市教育委員会編）、小浜市は『名勝萬徳寺庭園書院ほか二棟修理工事報告書』（文化財建造物保存技術協会編）を発行。さらに小浜市は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「小浜市西組地区」の住民を対象に家の修理基準などをまとめたパンフレットを配布。『みくに龍翔館研究紀要第四号』には、みくに史学研究会が三国湊の景観や石造物の調査研究を掲載。『ふくい中心市街地の変遷』（まちづくり福井株式会社編）は明治期以降の市中心市街地の移り変わりを紹介し、写真や都市計画図も掲載。『越前笏谷石第３編』（三井紀生著）は全国各地に残る笏谷石の遺物を訪ね、その文化と流通・事業を紹介。「和紙の里」（三十号発行記念号編）は越前和紙を愛する会が会誌三十号を記念し別巻を刊行。

八、芸術・文学

『越前府中の石佛ほか』（北村市朗・山本昭治共著）は越前市武生地区の石仏など石造品約１００点を紹介し、中世から現代までの珍しい石造品も掲載。『越前勝山の俳諧宗匠比良野帰雲坊』（増田公輔著）は、江戸時代から明治時代にかけて勝山の俳壇で活躍した比良野帰雲坊（ひらのきうんぼう）を紹介。『一篇の詩より』（鯖江詩の会編）は鯖江詩の会詩誌「青魚」の七十号を記念し発行。『福井県古俳書大観 第９編』（斎藤耕子編）は県内の古俳書の翻刻。福井大学綜合図書館がリニューアルし、オープン記念展示として、没後百年となる山川登美子展が開催された。

九、歴史研究施設の動向

平成二十一年オープンした郷土史関係の施設を紹介する。

三月十日、敦賀市に敦賀鉄道資料館がオープンした。敦賀は日本海側で一番最初に線路が敷かれた所。鉄道資料館では、時代背景を交えながら敦賀の鉄道に関する歴史を紹介し、鉄道資料や列車模型なども展示している。

四月二十七日には美浜町の国吉城跡に隣接して若狭国吉城歴史資料館がオープンした。国吉城は戦国時代に若狭国の守護大名だった武田氏の重臣・粟屋氏が築城した。資料館は出土品や古文書の展示を行い、町の歴史を身近に感じてもらえる施設となっている。

そして、十一月二十八日福井県立こども歴史文化館がオープンした。この建物は旧福井県立図書館を改装したものであり、ノーベル物理学賞受賞の南部陽一郎氏と福井市出身の文化勲章受賞の故白川静氏の功績を解説するコーナーのほか、福井県の歴史上の人物や伝統工芸などの達人を映像やパネルで紹介するコーナーがあり、子どもたちが郷土の人物を通して、歴史、文化を学べる施設となっている。

なお、個人史、逐次刊行物等は割愛した。